

DXによる効果的で質の高い学修の実現に向けた指標

教育力研究開発機構

アウトプット

1. 教育に係るDXに関して、異なるテーマの講演会を**毎年**実施し、公開する。
2. 本学の教員を対象に、DXによる授業設計や授業運営（反転授業やICTツールの活用）等を支援する研修を**毎年**実施する。
3. 教育力研究開発機構のWebサイトにて、DXによる授業実践事例、ならびにICTを活用した授業実践の解説記事などを公開し、情報を広く提供する。また、情報は定期的に追加ならびに更新を行う。
4. ICTを活用した科目について、**50%以上の実施を目指す**（対象：学士課程の授業）。

アウトカム

1. 授業形式（対面授業、ブレンド型授業、オンデマンド授業、双方向型オンライン授業、反転授業）と、学生の授業への満足度や成長実感、GPAの関係を分析する。授業形式ごとに、授業外学習時間、成長実感、授業への満足度に対する授業アンケートの回答平均値、ならびにGPAを**前年度比+3%**あげることを目指す。

<評価項目>

授業外学習時間（授業アンケート設問10）

成長実感（授業アンケート設問3・4）

GPA

授業への満足度（授業アンケート設問11）

<方法>

オンデマンド／双方向型オンライン授業の別については、シラバスの「授業形式」から判断
対面授業は、授業アンケート設問14で「すべて対面」を選択した授業とする。

厳密には授業ごとではなく学生ごとによって異なるが、学生から見て（=学生主体で）対面か非対面かが分かれば良い。

<分析>

授業形式ごとに、授業外学習時間、成長実感、GPA、授業への満足度の**前年度比**を分析する。

学部ごとに上記分析結果を出し、**授業形態と科目の親和性**を考察する。

※授業アンケートとは学士課程における授業アンケートを指す（設問番号は2023年度実施のもの）

以上